

かみさと



学校教育目標

豊かな心もち
他のために行動できる子
やさしく かしく
たくましく

㊦んがえて行動 ㊦んなにあいさつ

㊦そい合って働く ㊦もだちを大切に

さいたま市立上里小学校 学校だより

発行者 校長 梶山 崇

〒339-0006

さいたま市岩槻区上里2丁目2番地

校長 梶山 崇

新年明けましておめでとうございます。保護者のみなさま、地域のみなさまにとって今年がさらによい年でありますようお願いしております。新しい年を迎え、子どもたちも新しい気持ちできつと張り切っていると思います。

さて、今年の干支は丑（牛）です。正確には辛丑（かのと・うし）と言われます。

丑（牛）と聞いて、どんなイメージをもつでしょうか。身体が大きい、のんびりしている、目がやさしい、働き者、力持ちなどのイメージをもつかと思います。学校図書館にある「十二支のはじまり」という絵本の中では、以下のように描かれています。「神様が正月の朝、動物たちに、『御殿に来るように。来たものから十二番まで順番に一年ずつその年の大将にする』というおふれを出しました。動物たちは自分こそ一番乗りだと大騒ぎをしていました。でも牛は自分で他の動物よりも遅れをとることが分かっていたため、前の晩からスタートしました。牛は元旦前に神様の元へと着いてしまったため、神様の元で元旦になるのを待ちました。（ちなみにねずみは牛の背中に乗っていて、牛が着いたとたんに背中から飛び降り一番に着いたので、子（ね）が十二支の一番となったそうです）」。

これらのことから牛は計画的でかつ行動的と読み取れますね。例えると、試験のための勉強を何日も前から始め、自信をもって試験に臨めるようにしたり、大会のために、数カ月も前から練習を開始し、当日に準備万端で臨んだりなどになりますね。牛のよいところを私たちの日々の生活習慣にも取り入れたいですね。

また、丑（牛）といえば、学問の神様を祀っている神社で、よく坐っている像（使いの牛）を見かけますね。なぜ、座っているかという祭神とされている方の生年が丑の年だからという説、またその方の亡くなられたのが丑の日だからという説、その他諸説があります。さらに自分の傷や病気のところに当たる牛の箇所をさすると回復するとの言い伝えや頭をなでると受験に合格するとの言い伝えもあります。

ぜひ、子どもたちにも今年目標を立ててもらい、目標に向かって牛のようにゆっくり地道に、確実に進んでほしいと願っています。

学校だよりを作成するにあたり、2か月くらい前に現地に見学に行きました。しかし、昨今の状況のため、牛はプラスチック製の棒で覆われて触れられないようになっていました。

今月も本校の教育活動にご支援をお願いいたします。

※この内容を書くに当たっては、学校図書館の「日本の民話えほん（十二支のはじまり）」等の書籍並びにインターネットの情報を参考にしております。